

令和4年度病害虫発生予報第3号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病（葉いもち）	並	並
	紋枯病	並	並
水稲共通	ヒメトビウンカ（技術情報第1号）	並	並
	縞葉枯病（技術情報第1号）	少	少
	ツマグロヨコバイ	並	並
	萎縮病	並	並
	セジロウンカ	並	並
	トビイロウンカ	並	並
	コブノメイガ	並	並
いちご （育苗床）	うどんこ病	やや少	やや少
	炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ）	並	並
	ハダニ類	並	並
アスパラガス	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病（防除情報第3号）	多	多
	黒点病	並	並
	ミカンハダニ	並	並
	チャノキイロアザミウマ	並	並
びわ	がんしゅ病	少	少
	灰斑病	並	並
	ナシヒメシンクイ	並	並
なし	黒星病	並	並
	ナシヒメシンクイ	並	並
果樹共通	カメムシ類	やや少	やや少
茶	炭疽病	並	並
	チャノキイロアザミウマ	並	並
	チャノコカクモンハマキ	やや多	やや多
	（防除情報第4号）		
	チャノホソガ（防除情報第4号）	やや多	やや多
	カンザワハダニ	やや少	やや少
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	やや多
	クワシロカイガラムシ	並	並

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（39筆）の結果、発生を認めなかった（発生株率0.0%、発生圃場率0.3%）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生株率は2.0%

(過去10か年平均 0.0%)であった。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである(葉いもち感染好適条件判定モデルによる。好適条件等の詳細は病害虫防除所ホームページを参照)。

月日	長崎	佐世保	島原	平戸	松浦	厳原	芦辺	福江	大瀬戸	口之津
6月1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月2日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月3日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月4日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月5日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月6日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月7日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月8日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月9日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月10日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月11日	-	●	-	-	-	-	1	-	-	-
6月12日	4	-	-	-	-	-	-	-	-	●
6月13日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月14日	-	-	-	●	●	-	-	-	-	4

発生指標	?:判定不能	-:好適条件なし	1:準好適条件1	2:準好適条件2	3:準好適条件3	4:準好適条件4	●:好適条件
------	--------	----------	----------	----------	----------	----------	--------

2. 紋枯病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生株率は3.0%であった(発生を認めない)。

水稻共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

(1) 予報内容：発生程度 ヒメトビウンカ 並
縞葉枯病 少

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(39筆)の結果、早期水稻におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭(0.1頭)、発生圃場率は51.3%(44.0%)であった。縞葉枯病の発生は認めなかった(過去10か年平均 発生株率0.0%、発生圃場率0.2%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稻におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭(0.4頭)であった。縞葉枯病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

ウ ヒメトビウンカ(第1世代)の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況については令和4年6月15日付け**病害虫発生予察技術情報第1号**による。

2. ツマグロヨコバイと萎縮病

(1) 予報内容：発生程度 ツマグロヨコバイ 並
萎縮病 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(39筆)の結果、早期水稻におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.1頭(0.1頭)、発生圃場率は25.6%(37.9%)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は1.7頭（1.9頭）であった。萎縮病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

3. セジロウンカ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月5日に予察灯（諫早市、佐世保市）において初誘殺を確認した。

イ 6月前期の巡回調査（39筆）の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.0頭（0.1頭）、発生圃場率は23.1%（37.6%）であった。

ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.3頭（0.6頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する(病虫害防除所ホームページ参照)。

4. トビイロウンカ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月14日現在、予察灯及びネットトラップにおいて誘殺は確認していない。

イ 6月前期の巡回調査（39筆）の結果、早期水稲におけるトビイロウンカの発生は認めなかった（過去10か年平均 株当たり虫数0.0頭、発生圃場率0.5%）。

ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、トビイロウンカは発生を認めなかった（過去10か年平均 株当たり虫数0.0頭）。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する(病虫害防除所ホームページ参照)。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月5日にフェロモントラップ（諫早市）において初誘殺を確認した。

イ 6月前期の巡回調査（39筆）の結果、早期水稲における食害株の発生は認めなかった（過去10か年平均 発生圃場率0.7%、食害株率0.0%）。10㎡当たり成虫数は0.1頭（0.0頭）であった。

ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稲における食害株率は0.4%（過去10か年平均 0.0%）、成虫及び幼虫の発生は認めなかった（過去10か年平均 10㎡当たり成虫数0.4頭）。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する(病虫害防除所ホームページ参照)。

いちご（育苗床）

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（30筆）の結果、発病株率は0.8%（1.6%）、発生圃場率は10.0%（9.3%）であった。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（30筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めな

い)。

イ 病害虫防除所への診断依頼では、6月8日持ち込み分の親株において発生が認められた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実にを行う。また、育苗床の除草を徹底するなど環境整備に努める。

イ 育苗床は全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上りを防止する。また、雨よけ施設がある育苗床ではビニール展張を行う。

ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置せず、適切に処理する。

エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に長雨、台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に薬剤散布を行う。

3. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(30筆)の結果、寄生株率は4.4%(7.1%)、発生圃場率は46.7%(43.7%)であった。

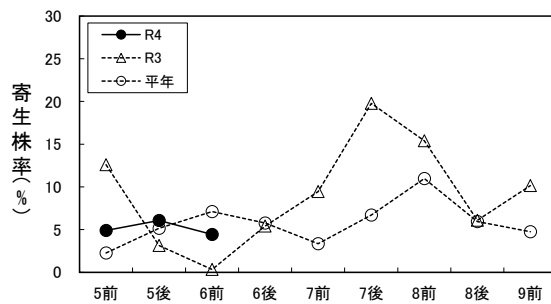


図 ハダニ類 寄生株率の推移

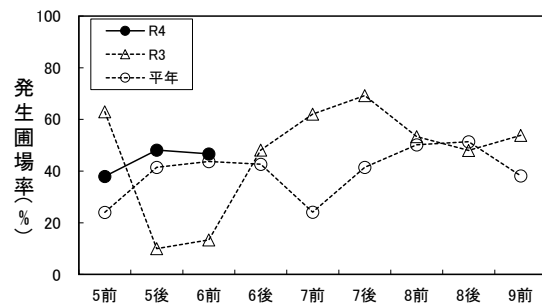


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(12筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cm白色板に5回×10か所)は12.7頭(20.8頭)、発生圃場率は50.0%(69.9%)で、一部多発生圃場が見られた。

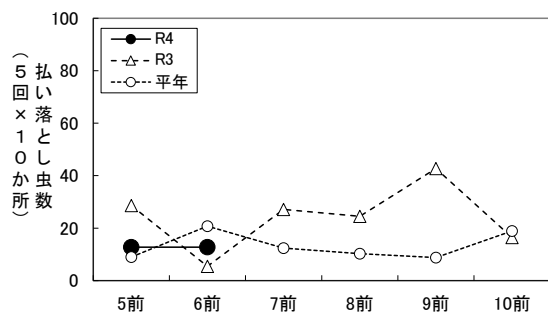


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

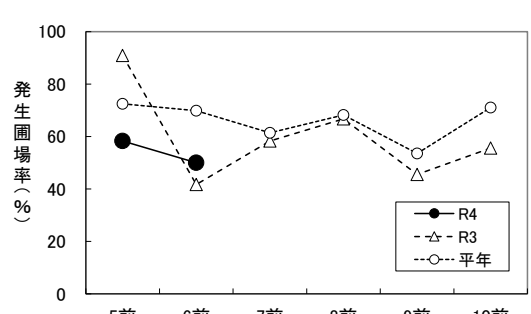


図 アザミウマ類 発生圃場率の推移

かんきつ

1. かいよう病

令和4年6月15日付け**病害虫発生予察防除情報第3号**による

2. 黒点病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は6.8%（7.3%）、発生圃場率は25.0%（40.3%）であった。

4. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（36筆）の結果、果頂部、果梗部ともに被害の発生を認めなかった（果梗部：被害果率0.0%、発生圃場率0.3%、果頂部：過去10か年平均 被害果率0.0%、発生圃場率0.3%）。

イ 黄色粘着トラップによる誘殺量は、平年並～やや多く推移している（図）。

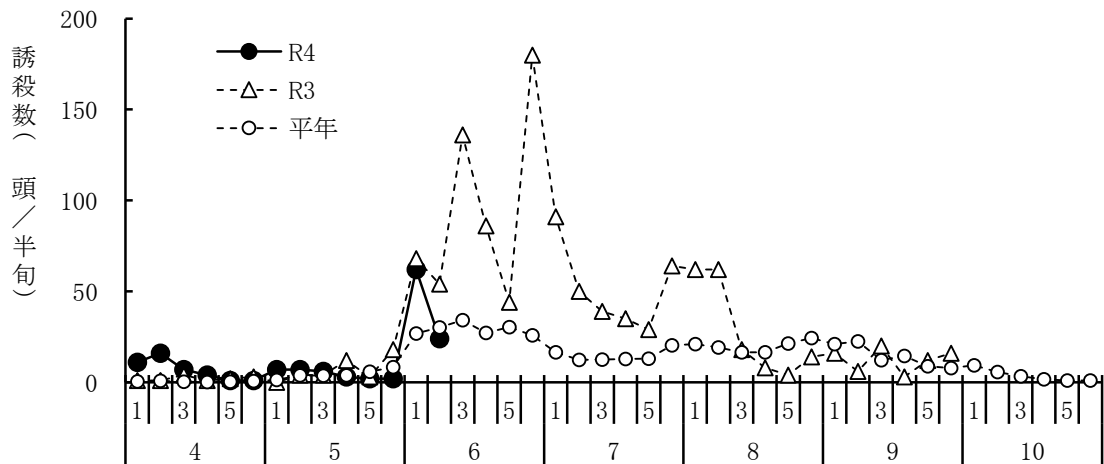


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (月・半旬)
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日は、平年より2～5日程度早まる見込みである（表）。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	口之津	平戸
第3世代	6/25	6/25	6/28	7/7
〃 (平年)	6/30	7/1	7/1	7/12
〃 (前年)	6/18	6/19	6/22	7/1
第4世代	7/14	7/15	7/17	7/26
〃 (平年)	7/18	7/20	7/19	7/31
〃 (前年)	7/7	7/8	7/12	7/20
標高(m)	27	4	10	58

注1:発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2022年6月13日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2:同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3:表中の発生ピーク予測日の5日前から予測当日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

びわ

1. がんしゅ病

- (1) 予報内容：発生程度 少
 (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.2%、発生圃場率7.5%)。

2. 灰斑病

- (1) 予報内容：発生程度 並
 (2) 予報の根拠

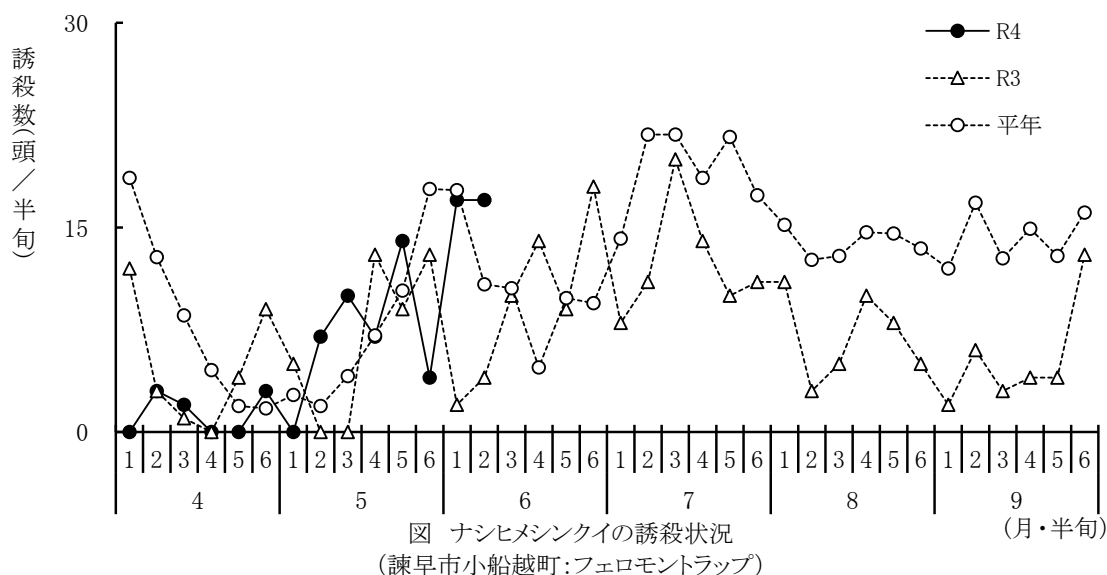
6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生枝葉率は4.8%(3.6%)、発生圃場率は70.0%(63.8%)であった。

3. ナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容：発生程度 並
 (2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.3%)。

イ フェロモントラップの6月2半旬の誘殺量は、平年よりやや多い(図)。



なし

1. 黒星病

- (1) 予報内容：発生程度 並
(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.4%(0.5%)、発生圃場率は25.0%(29.6%)であった。果実では発病果率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は8.3%(5.6%)であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

- ア 発病した果そう基部、葉、果実は伝染源になるため、見つけ次第園外に持ち出し、埋没等の処分を行う。
イ 降雨により伝染するので、天候を見ながら適切に防除する。
ウ 薬剤散布に当たっては、かけむらがないよう十分量を散布し、薬液のかかりにくい園の周縁部には補完散布を行う。
エ 県内において、DMI(ステロール生合成阻害)剤に対する感受性が低下した地域が認められているため、同一系統(令和4年長崎県病害虫防除基準P410~411の「作用機構による分類(FRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

2. ナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容：発生程度 並
(2) 予報の根拠

- ア 6月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去6か年発生を認めない)。
イ フェロモントラップの6月2半旬の誘殺量は、平年よりやや多い(びわの項参照)。

果樹共通

1. カメムシ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
(2) 予報の根拠

フェロモントラップの誘殺量は平年よりやや少ない(図)。

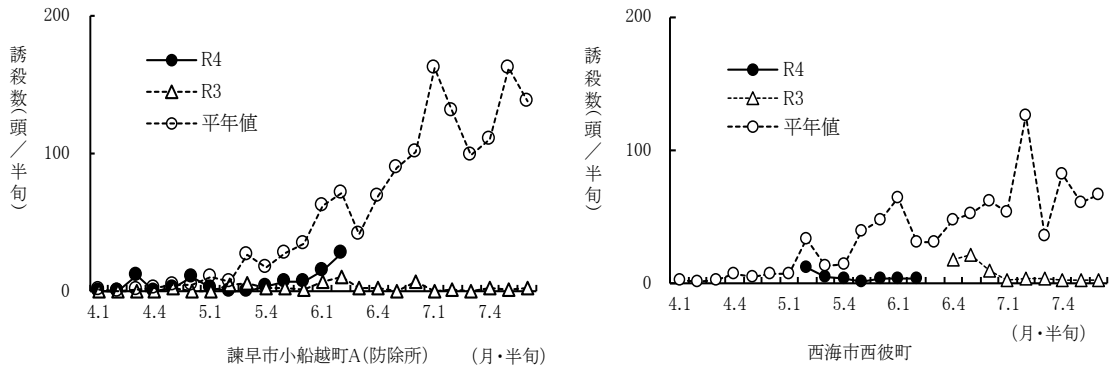


図 フェロモントラップによる果樹カメムシ類の誘殺量

茶

1. 炭疽病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡当たり発病葉数は2.1枚（1.6枚）、発生圃場率は42.1%（41.0%）であった。

2. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は23.5頭（16.5頭）、発生圃場率は89.5%（90.4%）であった。

3. チャノコカクモンハマキ

令和4年6月15日付け**病害虫発生予察防除情報第4号**による

4. チャノホソガ

令和4年6月15日付け**病害虫発生予察防除情報第4号**による

5. カンザワハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生葉率は1.1%（4.7%）、発生圃場率は31.6%（37.8%）であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

ア 葉裏にも葉液が十分かかるよう散布する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準P430～433の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は20.5頭（6.5頭）、発生圃場率は94.7%（71.2%）で、一部多発圃場があった。

- (3) 防除上注意すべき事項

ア 三番茶の萌芽～開葉初期に重点的に防除を行う。

イ 中切り等の更新園、摘採中止園、幼木園などでは、茶芽生育期間が長いことため被害が継続し、樹勢へ及ぼす影響が大きいことから、特に注意する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病虫害防除基準 P430～433の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生株率は1.2%（8.1%）、発生圃場率は52.6%（42.5%）であった。

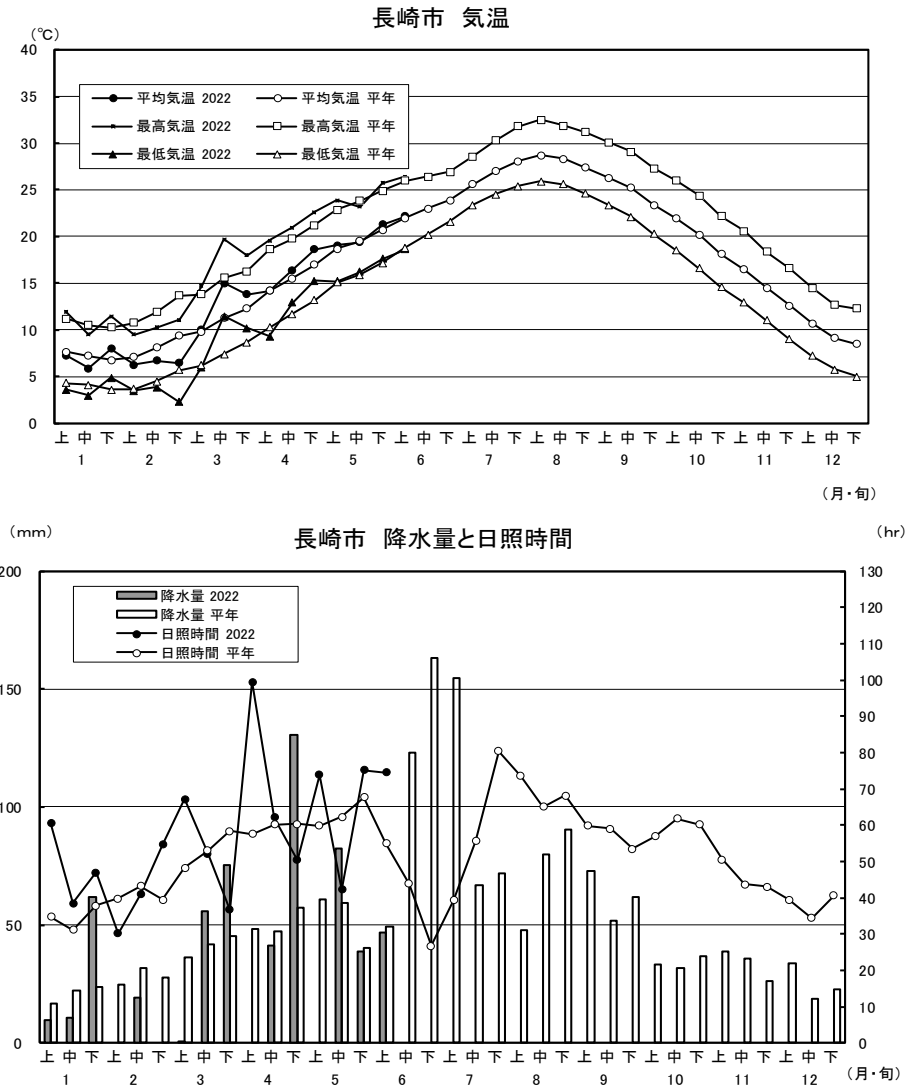
【参考】

(令和4年6月9日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	30	40

※予報対象地域：九州北部地域

令和4年の気象経過（長崎地方気象台）



- 6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。
- 長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>
- この情報に関するお問い合わせ
長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

